

町民が主役のまちづくり

まち育新聞

第 3 号

＜発行所＞
総務部政策財務グループ
政策担当
美幌町字東2条北2丁目
TEL0152-73-1111

まちづくり活動奨励事業

自治会やNPO、ボランティア団体等の実施する公益性のあるまちづくり活動に対し、経費の一部を町が補助し、個性、地域性豊かな独自のまちづくりを町民主体で進めていくことを目的とした美幌町独自の補助制度です。

町民の活動をサポート

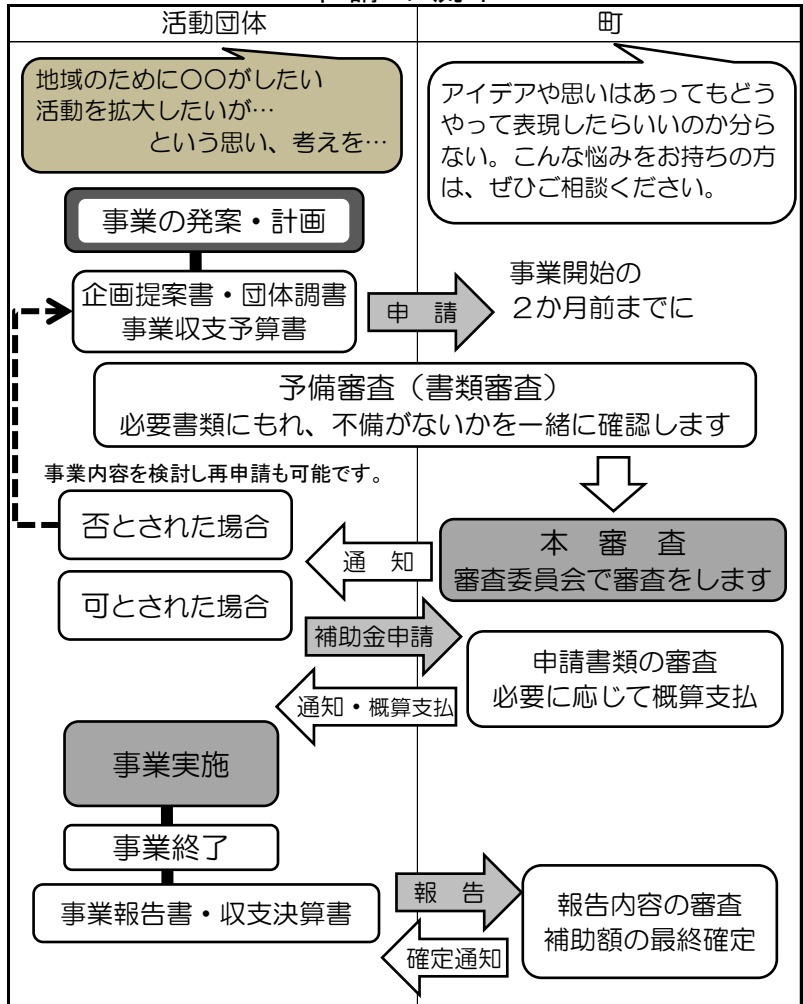
町民活動団体が持つノウハウやネットワーク、行動力を生かし、まちを明るく元気にするまちづくり活動に対し、活動に要する経費のうち、飲食費、人件費、その団体の経常的な運営維持管理費等を除いた経費の2分の1以内、50万円を上限に、また、新たな設備投資が必要なものについては、10万円を上限に補助します。

町民活動団体が持つノウハウやネットワーク、行動力を生かし、まちを明るく元気にするまちづくり活動に対し、活動に要する経費のうち、飲食費、人件費、その団体の経常的な運営維持管理費等を除いた経費の2分の1以内、50万円を上限に、また、新たな設備投資が必要なものについては、10万円を上限に補助します。

補助の期間は原則1年としていますが、最大3年まで継続可能なため、これから活動を始めたい団体

が主導で行ってきた部分が多かったのですが、これからは「自治基本条例」の基本原則にもあるよう

～ 申請の流れ ～



情報コーナーを開設

町民の皆さまに、まちの情報を知りやすく提供するために役場庁舎1階ロビーに情報コーナーを開設しています。



町で作成した刊行物を設置

美幌豚を原料にした「まるまんま」発売

合同会社びほろ笑顔プロジェクトが美幌豚を原料にした醤油「まるまんま」の販売を開始しました。

美幌高校で規格外野菜のみを飼料にして育てた豚肉を使って作られている醤油で、旨味成分が普通の醤油の2倍近く含まれている調味料です。

好評により既に品切れとなつて

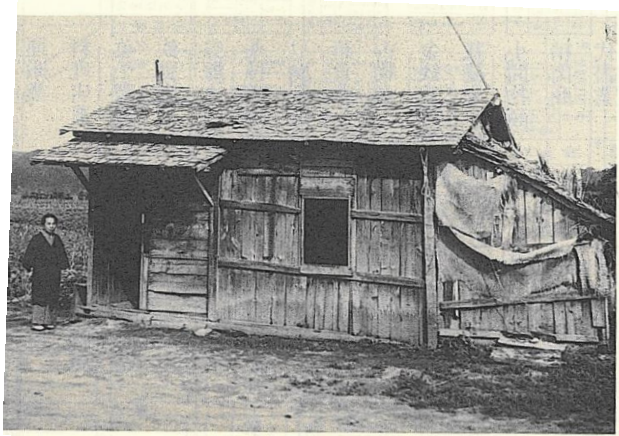
多くの店舗も、次回11月出荷分のご予約を受け付けています。へ問合せ・ご予約は



合同会社びほろ笑顔プロジェクト
73・5251 (美幌商工会議所内)へ

美幌歴史さんぽ

美幌町の始まり
は明治20年

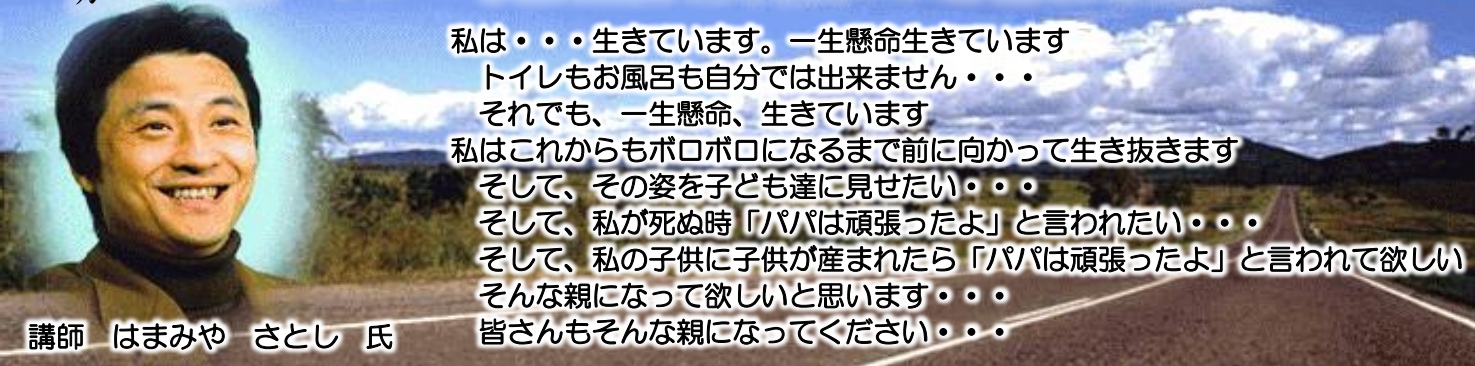


明治33年に開業した磯江商店
〈出典:美幌叢書 第4号 美幌歴史写真集〉

元町に戸長役場ができてから第一号に商店をはじめたのは生田錫三郎さんでコタン(集落)の人を相手に明治22年の開業とある。その後、33年に磯江商店が開業したがその時の戸数(世帯数)は約50戸だった。明治36年には市街地の区画割ができ、大通りを中心に東一条から西一条、南二丁目から北一丁目までの番地が定められ、そのころから商店が立ち並んだ。その当時の物価は次のとおり。
白米一俵(60kg) 8円60銭
白米一俵(60kg) 6円
清酒一升(1.8ℓ) 50銭
大正元年、鉄道開通と共に商売競争も激しくなり、荒物雑貨店が主だった次第に専門店が増え、大正15年に美幌商工会議所ができた。

美幌町自治基本条例制定1周年記念講演会を10月21日(日)に開催

「突然の寝たきり状態から3つ子を養う姿」
勇気・感動・希望 手指も動かぬ車椅子パパが語る人間物語。



私は・・・生きています。一生懸命生きています
トイレもお風呂も自分では出来ません・・・
それでも、一生懸命、生きています
私はこれからもボロボロになるまで前に向かって生き抜きます
そして、その姿を子ども達に見せたい・・・
そして、私が死ぬ時「パパは頑張ったよ」と言われたい・・・
そして、私の子供に子供が産まれたら「パパは頑張ったよ」と言われて欲しい
そんな親になって欲しいと思います・・・
皆さんもそんな親になってください・・・

講師 はまみや さとし 氏

困難を乗り越え強く生きる ～人と人助け合う心、人間として最も大切なこと～

講師の濱宮氏は、18歳の時に棒高跳びの練習中、首の骨を折り、車椅子の生活となってしまいました。
生きる希望を無くし、自殺を考えた毎日。そんな状況から立ち直れたのは奥さんやボランティアの方など多くの人々の助けによるもの。
「勇気と感動」「笑いと涙」「やる気と元気」がもらえるお話です。

「奇跡体験アンビリバボー」
で再現ドラマ化

特集

町の新エネ導入の取り組み

木質バイオで新エネ推進！

導入計画の基となる美幌町地域新エネルギービジョンの中で「適している」とされたエネルギーのうち、最も温室効果ガスの削減効果が高い「木質バイオマス」をご紹介します。

●バイオマスとは？

生物資源（バイオ）の量（マス）を表す言葉で、再生可能な生物由来の有機性資源（化石燃料除く）のことをいいます。主なものでは家畜のはいせつ物や食品廃棄物、下水の汚泥、林地残材などがあります。

●木質バイオマスとは？

木材からなるバイオマスのことで、主に樹木の伐採などで発生する枝や間伐材、森林に放置されている林地残材、のこくず、端材、住宅の解体材などです。

●木質バイオマス燃料とは？

樹木を活用する燃料は、薪（まき）や炭がありますが、より利用しやすくするためにチップやペレットに加工して暖房などとして活用します。

チップ



残材などの端材を数センチ角の大きさに切り砕いたものです。

ペレット



残材などの端材を破碎、粉碎してオガ粉にして乾燥し、固めたものです。

●地産地消でエコに貢献

木質バイオマス燃料は灯油などの化石燃料と比べ、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量が大幅に少ない燃料です。地域の森林で伐採された残材などをその地で加工して消費する「地産地消」を推進することにより、運搬の際に発生する排気ガスの抑制になり、より大きな削減効果につながります。



① 太陽光発電
道内でも日射量が多いとされている管内の特性を生かして、住宅用太陽光発電モニター事業を実施し普及を進めています。ここ数年、普及が進み、町内の設置住宅は計画当初から累計で130戸を超えました。他に小学生対象の新エネルギー教室を開催しています。

② バイオマス燃料BDF
BDF（バイオディーゼル燃料）は、木材の間伐未利用材を利用し、木質チップや木質ペレットに加工、製造して専用のストーブやボイラーの熱源として再利用しています。ご家庭にはペレットストーブ、B&Gプールや峠の湯びほろには木質バイオマスボイラーが導入され、灯油や重油の代替燃料として再利用されています。

③ 木質バイオマス燃料
山林が豊富な町の特性を生かし、伐採時に生じる残材を精製し、町の公用車やごみ収集車などの代替燃料として一部再利用しています。

④ クリーンエネルギー自動車
ガソリンに比べ二酸化炭素や排気ガスの排出が少なく、年間1、500トンの削減を目標として、計画期間の中間点で目標をクリアしたことになります。さらなる上積みが期待されています。

温室効果ガス 年間1、500トン削減

●計画の目標と導入状況
導入計画を進める際に目安として設定した目標値は、地球温暖化の要因とされる温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出削減量です。計画の最終年度となる平成27年までに、スタート時（19年度）と比較して1年間で「1、574トン」削減する目標とし、計画しました。

今回の特集は美幌町の新しいエネルギー導入の取り組みのお話です。町では、環境の保全と循環型の社会を目指すために新エネルギーを計画的に導入していることと「美幌町地域新エネルギービジョン」を平成19年に策定し推進しています。

「燃料」とは、植物油を原料とした軽油の代替燃料で、町では家庭や飲食店の使用済みの廃棄食用油を回収、精製して再利用しています。昨年度は4、168リットルを精製し、町の公用車やごみ収集車などの代替燃料として一部再利用しています。

いハイブリッド車などの導入を推進するもので、公用車に導入したほか、最近では国のエコカー補助金・減税効果もあり、一般ユーザーの導入が盛んです。

今回は 美幌観光ボランティアガイドの会

におじゃましました



2010年に新ひだか町で開催された全道大会（2007年（2回目）に美幌町でも開催されました）

びほろボランティア



昭和63年から活動を始めて今年で24年目を迎える美幌観光ボランティアガイドの会をご紹介します。

観光ボランティアガイドの会は美幌観光物産協会による観光ボランティア養成講座を受講し、その修了者によって組織され、明るく目立つ「赤色」のブレザーを着て、主に観光客に対しておもてなしは「笑顔」から

現在女性25名、男性3名の会員で、会員相互の親睦を深め、情報・知識の交流を図りながら、観光客の皆様に関心・興味のある方には事務局へご連絡ください。

バスは10月8日まで毎日2便運行しており、観光ガイドは土・日曜日の午前中限定です。



やくばのしごと

森林担当

森林担当では有害鳥獣の駆除や捕獲許可などの狩猟に関する事務や、森林の整備、山火事予防運動、林道の維持管理などを行っています。

林バイオマス吸収量活用推進協議会を設立しました。推進協議会では多くの企業と森林整備協定を結び、企業活動などを通して排出した二酸化炭素などの温室効果ガスを、町などが行う森林の整備事業に投資してもらい、二酸化炭素吸収量を増やすことにより、相殺し、二酸化炭素の排出を実質ゼロにするという「カーボンオフセット」の取り組みを行っています。

